

ナバリスト 10

高山 太一 さん | 蔵持獅子神楽保存会

たかやま・たいち ● 三児の父。自営業（建築）。獅子神楽保存会や消防団、市民センター祭のボランティアなど地域密着で活動。そこでの縁がきっかけで、八幡・短野・蔵持の3地域の「獅子神楽フェス」や「ばりばりなばりフェス」の企画運営に携わる。



児童が楽しめる防災訓練を企画



ばりばりなばりフェスを初開催



親子2代「子ども天狗」で活躍

面白い活動をしていると、周りが面白い人でいっぱい

平成3年に蔵持獅子神楽保存会が発足し、「子ども天狗」がスタート。私はその1期生なんです。思い返せば、地域の皆さんに声をかけてもらいながら育ってきたんだなと感じます。そして、長女も、昨年から「子ども天狗」に。なんと女の子初！娘が楽しむ姿を見てみると、多世代が集える場って貴重だと思えますし、何より地域の皆さんが喜ぶ顔が見たいので、獅子舞を続けていきたいですね。

市民センター祭の企画を任されて頭に浮かんだのが、市内の獅子舞が集った「なばり獅子フェス」。消防団などでつながりのあった2団体に声をかけると、「喜んで！」と二つ返事。おかげで、普段秋祭りに足を運ばない人たちにも、「獅子舞ってすごい」って思ってもらえましたし、自分たちもワクワクできました。

獅子舞に、消防団、市民センター祭…。いずれも「自分から」ではなく、人に誘われて活動を始めたんですね。頼りにされると嬉しいし、「面白そうなことはやってみよう」と。自分が面白いと思える活動が続いているうちに、なんだか周りに面白い人が増えてきた。12月に開催した「ばりばりなばりフェス」もその一つ。みんなと関わっているうちに、地域愛があふれてきた気がします。

いま、地域づくりの活動は60〜70代が中心ですが、若い人が加わるともっと面白くなりそう。今度は「誘う側」として、地域の人たちをつなぐ役割を担っていききたいですね。

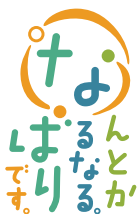
編集後記

獅子舞を始めて十数年。会員が徐々に減ってきて「これからどうする？」といった会話が楽しんできて、周りも「やってみよう」と思える循環を生み出したいですね（たか）

ダスキンの取組（16ページ）は、ロゴの活用と合わせて、教室のキレイにつながるいいこといっぱいの内容。子どもさんやお孫さんがいる小学校にモップを寄贈するのもいいかも（くま）

写真が集まらないかも…と不安だった「ばりっこあつまれ」企画。蓋を開ければ、予想を超える数の素敵な写真が！ランダムに配置したので、ぜひお子さんを探してみてください（はる）

ばりばりなばりフェスで出演者としても参加。演目が終わると、観客の声援につつまれ名張のあたたかさを感じました。職員としても演者としても名張を盛り上げていきたいです（こう）



名張のひと・活動

